

# 1 キリスト教教理入門

- 1  1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪

- 2  7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

## 2 第二部 啓示論

- 3章 神の普遍的啓示
- 4章 神の特別啓示
- 5章 啓示の保存: 靈感
- 6章 神のことばの信頼性: 無誤性
- 7章 神のことばの力: 権威

## 3 第4章 神の特別啓示

1. 特別啓示の定義と必要性
2. 特別啓示の様式
  1. 特別啓示の人格的性質
  2. 特別啓示の人間の性質
  3. 特別啓示の類比的性質
3. 特別啓示の方法
  1. 歴史的出来事
  2. 神の語りかけ
  3. 受肉
4. 特別啓示: 命題的か人格的か?
5. 啓示としての聖書

## 4 1. 特別啓示の定義と必要性

1. 語義と概念
2. 生来の制限と道徳的制限
3. 知識の拡張ではなく、選択的
4. 罪深さに対して、治癒的
5. 理解力の減少に対して、治療的
6. 二つの啓示: 調和的・補完的

## 5 2. 特別啓示の様式

### 1. 特別啓示の人格的性質

1. 「わたしはある。」
2. ユークリッドの公理のようではなく
3. 宇宙論の精査、伝記の詳述でなく

## 6 2. 特別啓示の様式

## 2. 特別啓示の人間の性質

1. 人間の範疇において
2. 特別に創造された言語なのか？
3. 光輪をもつイエス像？
4. 大部分は自然な出来事の形式で

### 7 2. 特別啓示の様式

#### 3. 特別啓示の類比的性質

1. 「走る」: 単一の意味と相違
2. 軍の工兵隊による作業
3. 質的に同じ、しかし程度において差
4. 神は両側を知っておられる

### 8 3. 特別啓示の方法

#### 1. 歴史的出来事

1. 一連の神的出来事
2. 奇跡的介入と日常的介入

### 9 3. 特別啓示の方法

#### 2. 神の語りかけ

1. 自身からではなく、神からのもの
2. 言語 = 仲介機能
3. 語りかけの幾つかの形態
4. 洞察・意見ではなく、啓示された解釈

### 10 3. 特別啓示の方法

#### 3. 受肉

1. 直接に現臨された
2. 神の行為の頂点
3. 神の肖像がそこに
4. 行為としての啓示と言葉としての啓示

### 11 4. 特別啓示: 命題的か人格的か？

1. 新正統主義によれば
2. 信仰が依拠しうる基盤
3. 信頼に値する対象
4. 神学それ自身のうちにある問題
5. 結びつきが正しく説明されず

### 12 5. 啓示としての聖書

1. 命題 保存 文書化
2. 経過・出来事 - 結果・生産物も

- 3.啓示の性質の問題 = 靈感
- 4.漸進的の意味
- 5.人格的臨在と情報としての真理

13  ICIインフォメーション

❖この講義はテープとMDで録音されており、必要な方にお分かちしています。関心のある方はご連絡ください。